

Title	國際天文同盟第5回總會の概要
Author(s)	山本, 一清
Citation	天界 = The heavens (1936), 16(179): 168-170
Issue Date	1936-02-25
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/167185">http://hdl.handle.net/2433/167185</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

## 國際天文同盟第 5 回總會の概要

山 本 一 清

去る1935年七月10日から同17日まで、既報の如く、佛國パリ市に於いて國際天文同盟の第5回總會が開かれ、我が國からは早乙女東京天文臺長と田中館博士が代員として出席されたが、全世界からは約300名の出席者があり、殊に此度は新らしく支那、ロシア、ユーゴスラビヤの三國が加盟することになつたので、加盟國は總計27ヶ國となつた。(天文同盟の組織等については天文年鑑を見られよ)。

總會は佛國大統領 Lebrun 氏臨場の下に、同國文部大臣が開會を宣し、佛國首席代表 M. le Comte de la Baume Pluvinel 氏、パリ天文臺長 E. Esclan-gon 氏、同盟長 F. Schlesinger 博士等の演説あり、翌日からは各部委員會に於いて協議が行はれた。其のうち特に重要なものを下に記す。

**天文記號と天文曆表との聯合委員會**では、1925年以來時刻制の名として Greenwich Civil Time (G. C. T.) や Greenwich Mean Time (G. M. T.) を廢し、Universal Time (U. T., 佛語では T. U., 獨國にては Weltzeit) 即ち「世界時」を用ゐることとした。但し英國でのみは當分のうち G. M. T. を用ふことを認める。G. C. T. は英國に於いて夏期時刻をも意味する誤解が起るので斷然用ゐないこととする。

**天文曆表と子午線天文學との聯合委員會**では、將來の基本恒星として獨國計算局で目下作製中の FK3, 即ちベルリン曆1936年版にある第3版 Auwers 目錄を用ゐることとし、米國ダドレイ天文臺で Boss 氏等が作製中の General Catalogue の星は寧ろ寫真觀測用に適すると了解された。

そこで**天文曆表の委員會**は、今後 FK3 目錄の星を佛獨米西の4國で分擔して毎年毎日の視位置を計算し、英佛獨3國語の説明を附し、英國で出版することとした。

**天文文書委員會**では、Stroobant を委員長とし、近く世界の各天文臺及び天文家の名簿増補を出版することに決定。

**天文電報委員會**では、暗號電報に必要な規程改正をなすことに決定。

**太陽黑點委員會**では、太陽面上の黑點及び種々の指示數報告は1936年初より太陽面を4分し(赤道及び中央子午線により)、北東、北西、南東、南西の各部別々に報告すること、又、太陽面の協同觀測は今後更に10年間繼續すること、尙ほ、太陽面は常に一層の努力を以て連續觀察を必要とするため、グリニチ時0時(日本中央標準時9時)の頃の觀測設備を獎勵すること、又、分光太陽鏡を増設するやう勧誘すること等を決議した。

**日食委員會**では、1936年六月19日の皆既食につき、早乙女氏より日本の北海道地方の狀況、又、Gerasimovic 氏よりはロシア・シベリヤ方面の狀況に關し説明があり、天

氣はシベリヤ東部が最も良きさうな見込みと報告された。又、ロシヤのステルンベルグ天文學院の A. Michailov 氏の研究報告があつた。次いで南阿の J. Jackson 氏から 1940年十月1日の皆既日食について有望なる豫測が報告された。

標準光波長の委員會では、今日各方面に用ゐられるスペクトル標準線の波長について協議が行はれた。

月の委員會は、さきに月面の命名が完了したので、一旦此の委員會を改組し、(a) 月面の觀察、(b) 月の物理研究、(c) 月の數理と掩蔽の3分科に別れることとなつた。

緯度變化の委員會は、木村委員長の辭任に伴ひ、英國の Spencer Jones 氏を新委員長とし、中央局は米英伊3國から申出であり、結局イタリアのナポリ天文臺が引受け、Camera 氏を主任とし、尙ほ永年の功勞により木村氏を名譽委員長とすることを決議した。

小遊星委員會では、第1から第4まで即ちセレス、パラス、ジュノ、ベスタの4遊星の精密な位置を年々發表することの必要を認め、之については獨國計算局が此の位置計算を引き受けることになつた。

又此の委員會中に、太陽視差の分科委員會を組織したが、1937年のエロスの對衝は 1930—31年の時の如く大がかりで觀測せず、主として寫眞及び子午環の觀測に止めることとするに決した。

流星委員會は、全世界にある流星觀測者團の調査と相互の連絡を期し、又、シベリヤ及び米國にある隕星坑の研究を促すこと等を決議した。

又、此の委員中から、黃道光關係の特別委員會を組織することを決議した。

天體光度委員會では、寫眞光度の整理統制を期することとし、之れがため、寫眞乾板製作者たちへ感光面の一樣なものを作られんことを希望することとした。

星霧星團及び分光光度の聯合委員會は、全銀河の綜合スペクトルについて討議し、尙、遊星形星霧のスペクトルに關する議論及び銀河光の吸收問題等も長時間にわたり論じられた。

恒星スペクトル委員會内に、新に新星分科會が組織された。

時刻の委員會では、今までの恒星時の放送を止めて、1936年初からは章動を除いた平均恒星時を標準時として放送することにした。

恒星統計學委員會では、銀河の北極としては Ohlsson 氏の表に用ゐてゐる通り赤經  $18^{\text{h}}40^{\text{m}}$ 、北緯  $28^{\circ}$  (1900年の分點) を採用することを決議した。

恒星構造の委員會では、Eddington 氏を座長とし、近年の物理學に於ける原子内部研究が恒星構造論の發展に關係深きこと、星の進化、輻射と縮小等につき、H. N. Russell, E. A. Milne, H. Shapley, S. Chandrasekhar 諸氏の間に討議が行はれた。

分光光度學委員會では、光度の標準に關して諸家の間に論議が行はれた。

次の總會は1938年にスエーデン國ストックホルムで開かれる筈。

尙ほ此のパリ會議により決定された新組織は下の通りである。

## 國際天文同盟 (1935—38)

同盟長 E. Esclanong, 總幹事 J. H. Oort.

(1) 相對原理委員會. (Relativity). 休止

- (2) 古典出版 „ (Publ. of Ancient Books). 休止.
- (3) 天文符號 „ (Notations). 委員長 E. Strömgen.
- (4) 天文曆表 „ (Ephemerides). 委員長 Comrie.
- (5) 天文文書 „ (Bibliography). 委員長 Stroobant.
- (6) 天文電報 „ (Telegram). 委員長 Spencer Jones. 中央局長 E. Strömgen.
- (7) 天文力學 „ (Dynamics) 廢止.
- (8) 子午線天文學 „ (Meridian Astronomy). 委員長 J. Jackson.
- (9) 天文器械 „ (Instrument). 委員長 Fabry. 幹事 Chretien.
- (10) 太陽黑點 „ (Sun-spot). 委員長 W. Brunner.
- (11) 紅焰現象 „ (Chromosphere). 委員長, d'Azambuja.
- (12) 太陽輻射及分光 „ (Solar Radiation & Spectroscopy). 委員長 G. Abbetti.
- (13) 日食 „ (Solar Eclipse). 委員長 S. A. Mitchell.
- (14) 標準波長 „ (Standard Wave-length). 委員長 Meggers.
- (15) 彗星物理 „ (Cometary Physics). 委員長 Baldet.
- (16) 遊星衛星 „ (Planets & Satellites). 委員長 Maggini.
- (17) 月 „ (Moon). 委員長 E. W. Brown.
- (17A) 月面分科會. (Selenography).
- (17B) 月面物理 „ (Lunar Physics).
- (17C) 太陰論及掩蔽 „ (Lunatheory & Occultation).
- (18) 經度委員會. (Longitudes). 委員長 Perrier. 幹事 Lambert.
- (19) 緯度變化 „ (Latitude Variation). 委員長 Spencer Jones. 名譽委員長 木村榮. 中央局長 Carnera.
- (20) 小遊星彗星 „ (Asteroids & Comets). 委員長 A. O. Leuschner. 副委員長 Numerov.
- (20A) 太陽視差分科會. (Solar Parallax). 委員長 Spencer Jones.
- (21) 彗星 „ (Comet). 廢止.
- (22) 流星委員會. (Meteor). 委員長 F. de Roy.
- (22A) 黃道光分科會. (Zodical Light). 委員長 山本一清.
- (23) 寫真天圖委員會. (Carte du ciel). 委員長 J. Bailland.
- (24) 視差及固有運動 „ (Parallax & Proper Motion). 委員長 F. Schlesinger.
- (25) 恆星光度 „ (Stellar Photometry). 委員長 Seares. 幹事 Lindblad.
- (26) 二重星 „ (Double Star). 委員長 E. Hertzsprung.
- (27) 變星 „ (Variable Stars). 委員長 Dugan.
- (28) 星霧星團 „ (Nebulae & Clusters). 委員長 H. Shapley.
- (29) 恆星分光 „ (Stellar Spectra). 委員長 H. N. Russell.
- (29A) 新星分科會. (Novae). 委員長 F. J. M. Stratton.
- (30) 視線速度委員會. (Radial Velocity). 委員長 W. S. Adams.
- (31) 時制 „ (Time). 委員長 Noslund. 副委員長 Perrier. 中央局長 E. Esclançon.
- (32) “選擇面” „ (“Selected Areas”). 委員長 Van Rhijn.
- (33) 恆星統計 „ (Stellar Statistics). 委員長 Lindblad.
- (34) 太陽視差 „ (Solar Parallax) 廢止.
- (35) 恆星構造 „ (Stellar Constitution). 委員長 A. S. Eddington.
- (36) 分光光度 „ (Spectrophotometry). 委員長 Pannekoek.